

NPO 法人日本医学図書館協会（JMLA）

2023 年度病院部会主催研修会

開催報告

■日時：2024 年 3 月 2 日（土）13:00 – 17:10

■会場：

国立がん研究センター 研究棟 セミナールーム

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 <http://www.ncc.go.jp>

交通アクセス：<http://www.ncc.go.jp/jp/ncch/d002/access/index.html>

■参加：会員 10 名、非会員 2 名

■プログラム

12：30～12：50 受付：研究棟 セミナールーム

12：50～13：00 ご挨拶・オリエンテーション

13：00～14：40 「医学用語を学ぶには：医学図書館員の財産であり商売道具である専門用語を自分のものにする方法」

講師：山口直比古氏（聖隷佐倉市民病院）

医学用語は医療者にとってはお互いのコミュニケーションには欠かせない共通の言葉です。

医学図書館員にとっても医療者とコミュニケーションするためには、基本的な知識が求められます。

医学用語には大きく分けて、「病気や症状の名前」、「薬の名前」があります。それぞれ国際的な

ルールのもとでその名称が決められています。さらに、それ以外にも、患者や一般市民の方たちに用

いられている言葉もあります。医学図書館員のリテラシーとしては、PubMed や医中誌のような文

献データベースで検索する際に用いる検索キーワードを的確に決める能力が求められます。

そのための「医学用語」の仕組みを勉強しましょう。私のお勧めは、「新聞を読む」ことです。

そしてそこに書かれている様々な（そして新しい）医学の言葉の意味を知るために、とにかく自分
なりの方法で調べましょう。

問題です。コロナ感染症検査の際に用いられた「PCR」検査とはどのようなものでしょうか。

14：50～16：30 「地域包括ケアシステムにおける病院図書室の役割を考える」

講師：佐藤正恵氏（千葉県済生会習志野病院）

2014 年に「医療介護総合確保推進法」が施行され、地域包括ケアシステムが構築されて 10 年に

なります。医療機関の図書室として、改めて医療制度の沿革と現状を学ぶ機会とします。さらに、

医療のトピックスである SDM(シェアード・ディシジョン・メイキング)と APC (アドバンス・

ケア・プランニング：人生会議) を考えるワークショップ「もしバナゲーム」を行います。

16：40～17：00 情報交換

17：00～17：10 閉会挨拶

■参加費：JMLA 会員は 1,000 円、非会員は 2,000 円

■主催：JMLA 病院部会 <https://jmla1927.org/hospital.php>

以上